

私立大学研究ブランディング事業

平成28年度の進捗状況

学校法人番号	171002	学校法人名	金沢工業大学		
大学名	金沢工業大学				
事業名	ICT・IoT・AIの先端技術を活用した地方創生				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	5920人
参画組織	工学部、情報フロンティア学部、環境・建築学部、バイオ・化学部、地域防災環境科学研究 所、情報技術研究所、ものづくり研究所、先端材料創製技術研究所、FMT研究所、地域共創 イノベーション研究所、生活環境研究所、感動デザイン工学研究所、電気・光・エネルギー応 用研究センター、地方創生研究所				
事業概要	「ICT・IoT・AIの先端技術を活用して新たな里山都市を創生する大学」というブランド確立を目 指し、我が国の重要課題である過疎地を研究フィールドとした「里山都市」において、産業界・ 自治体とともに本学研究所群が持つ多様な要素技術を集結した産学連携型研究を進める事 で、里山都市の新たな機能（ライフスタイル）創生を行い、地域に貢献する理工系総合大学と して、地方創生イノベーションの実現と社会への価値発信を行う。				
①事業目的	本学は、イノベーション創出を支援すべく、平成29年に過疎地域と呼ばれる白山市中山間部に 新たに建設する金沢工大白山キャンパスに研究機能の一部移転を計画している。 過疎地域への研究機能の進出を決定した最大の理由は、既存の経済圏に捉われず、大都 市から一線を画した場所で、未来志向に基づいた新たな都市を創造できる環境こそがイノベ ーションを創出するために最も効果的であると捉えたからである。また、都市消滅という危機的な 状況を打開するためには、既存の人々の豊かな生活を支える自然や街・コミュニティといった重 要な里山の機能を保ちつつ、安心・安全の暮らしを実現するために地域防災・エネルギー・教 育・福祉・医療・産業振興といった分野のライフスタイルの変革が過疎地域に必要である。これ らを踏まえ、地方都市におけるイノベーション創出及びライフスタイル変革のフィールドとなる新 たな街を「里山都市」として位置づけ、その必要性を地元産業界・地域社会・自治体の方々と 共有し、都市そのものを研究対象とすることで、地元産業界の新たなイノベーションに向けた チャレンジを喚起する実践的な産学連携研究を推進していく。				
②平成28年度の実施 目標及び実施計画	<p>(実施目標)</p> <p>本事業の中心となる実施機関にあたる地方創生研究所を発足し、前項事業実施体制に示す 所属メンバーの体制整備及び連携企業との調整を行い、学長リーダーシップの下、研究所機 能を運営できる体制整備を行う。 研究プロジェクト数 1(参加企業数 5社)、パートナー企業数 50社、交流者数 150人</p> <p>(実施計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○里山都市イノベーション研究所設立準備(10月～12月) ○ブランディング広報発信の方策検討(10月～3月) ○里山都市イノベーションプロジェクト創出セッション開催(12月) ○外部評価委員会設立(12月) ○里山都市イノベーション研究所設立(1月) ○里山都市イノベーションプロジェクト創出(1月) ○イノベーション里山都市フォーラム開催(3月) ○評価委員会開催(3月) 				
③平成28年度の事業 成果	<ol style="list-style-type: none"> ①里山都市イノベーション研究所設立準備のための基本的スケジュール作成をした。学内関 係者との調整打合せの重ね、平成29年2月に「地方創生研究所」(所長:学長)を設立した。 ②情報発信の方策検討を行い、平成29年1月に研究ブランディング事業HPを開設した。 ③里山都市イノベーションプロジェクトとして、空間情報PRJ・LPWA実証実験PRJ・工作機械関 連企業データ分析PRJ・非分野PRJ・エネルギーマネジメントPRJの5プロジェクトを創出した。 ④イノベーション里山都市フォーラムをSENQ霞が関(東京都千代田区)で開催した。本事業 の概要や里山都市構想について、首都圏企業(参加企業数:68社)を中心に情報発信を行っ た。 ⑤平成28年度事業成果に関し、平成29年4月に白山市及び北陸産業活性化センターにて外 部評価を受け、その結果を踏まえて平成29年5月に学内での内部評価を行った。 				

<p>④平成28年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) 5つの指標を元に評価を行った。(達成度) ①研究プロジェクト創出数(目標1プロジェクト):5プロジェクト(500%) 事業初年度であったが、研究所長(学長)の強いリーダーシップによって早急に事業推進体制を確立できたため、5つのプロジェクトを創出することができた。 ②プロジェクト参加企業数(目標5社):16社(320%) 創出プロジェクト数が当初目標を大きく上回ったため、参加企業数も増加した。 ③参加企業満足度:90% SENQ霞が関で開催した里山都市フォーラムアンケート結果より算出した。 ④パートナー企業数(目標50社):68社(136%) SENQ霞が関で開催した里山都市フォーラムに参加した企業数より算出した。 ⑤交流者数(目標150人):85名(56%) SENQ霞が関で開催した里山都市フォーラムの参加人数より算出した。</p> <p>今年度の成果としては、概ね目標値を達成できたが、情報発信イベントを1回しか開催できなかったため、交流者数が目標値に届かなかった。H29年度は情報発信イベントを重点的に強化して目標を達するように事業推進していく。</p>
	<p>(外部評価) 今年度の事業成果及び来年度以降の実施計画を白山市及び北陸産業活性化センターに説明し、以下の意見を頂いた。 事業構想が多岐に渡っている点では期待は大きいですが、その結果として活動成果が見えにくくなる懸念もあるため、スタートアップの1~2年目はある程度プロジェクトを絞り込んで着実に事業成果を上げていくことで、より関連企業へ共感が得られやすいと思われる。 エネルギーマネジメントプロジェクトは、個別に行っているケースはあるが総合的に取り組んでいる事例はあまりないと思われる。今回のようなバイオマス・バイナリーといった複合的なプロジェクトが推進していくことに期待している。 自動運転やドローンによる獣害対策は、地域の期待も大きいので実効性がある形で推進していただきたい。 産業振興が難しい山麓地域に雇用の場が創出されることが理想的であり、スキー場跡地等の遊休施設の利用といった活動がプロジェクトと連動することを自治体としても大いに期待している。</p>
<p>⑤平成28年度の補助金の使用状況</p>	<p>研究費:工作機械シミュレータ、ホロレンズ、3次元モデル作成ソフトウェア、ディスプレイ、ファイルサーバ 広報・普及費:広報用パネル作成、ホームページ作成 その他:フォーラム講師謝金、情報発信・収集調査旅費</p>